

B-11 ガードル使用状況の調査と解析  
東横学園女短大 ○岡村幸子  
日本女大家政 芦沢昌子

目的 ガードル素材も新しい状態に比べて、弾力性が落ちてきたり、部分的に伸びてしまったり、変色したりすると廃棄して次のを購入するというのが実状であるが、保形が大きな機能であるがガードルは、素材の性能劣化が機能の喪失につながるのだから、どの程度迄の使用が有効であるかを見極めたいと考えた。

そこで、まず実際の使い方と劣化の関係をしらべる為、面接式アンケート方法で調査を行い、その結果を解析した。

方法 被調査者女子学生 1124名中 ガードル使用者 517名、主婦 105名中 使用者 65名を対象にした。面接に際し、曲げかたさの異なる2種のガードル編地を提示し、被験者の所持しているものと確認しながら調査を行った。使用日数、使用方法、洗濯方法、洗濯頻度、傷んでくる場所、廃棄の理由その他について調べ解析した。

結果 これらの結果について信頼性の技術を用いて解析し、次のことがわかった。

1. 曲げかたさの大きい編地のガードルは小さいものより劣化が早い。
2. 洗い方では、機械洗いの方が手洗いにして劣化が早い。
3. 使用洗剤の影響は、弱アルカリ性洗剤の方が中性洗剤より劣化が早い傾向にある。
4. 傷み易い場所、廃棄理由、改良してほしい点等使用上の実態を得た。